



A-08 感染性呼吸器疾患

はいひけっかくせいこうさんきんしょう

肺非結核性抗酸菌症

【概要】

結核菌以外の抗酸菌が肺に感染して起こる病気です。非結核性抗酸菌は土や水などの環境中にいる菌で、結核菌とは異なり人から人には感染しません。菌の種類は150種類以上ありますが、非結核性肺抗酸菌症の80%がマック菌で、次に多いカンサシ菌が10%です。

【疫学】

女性にやや多く、年間約8,000人が発症します。肺結核が年々減少しているのに対して非結核性肺抗酸菌症は増加しています。

【感染の経路と発病】

主に浴室や土を扱う作業で空気中にたゞよう非結核性抗酸菌を吸い込むことにより感染すると考えられています。多くは数年から10年以上かけてゆっくりと進行します。

【症状】

症状がなく、検診の胸部エックス線検査などで発見されることもしばしばあります。

せき、たん、血たん、だるさ、発熱、寝汗、体重減少などが出ることもあります。

【検査】

胸部エックス線検査、胸部CT検査で特徴的な

影を見つけます。たんを調べ、培養で菌があれば診断になりますが、結果が出るまでに6週間程度かかることがあります。たんから2回以上同じ菌が出るのが診断に必要です。たんが出ない場合は気管支鏡検査を行い、検体の培養を行います。

【治療】

非結核性肺抗酸菌症のうちマック菌が原因と診断されて、症状や肺の影が悪化してくる場合には薬による治療を行います。クラリスロマイシンと抗結核薬2種類を毎日内服し、少なくとも1年半(菌が培養されなくなってから1年間)続ける必要があります。

【生活上の注意】

服薬は長期間になりますが毎日忘れずにします。

肺結核と異なり人から人へは感染しませんので、社会生活は特に制限ありません。

【予後】

菌が完全に消えることはまれであり、治療終了後も再発しないか定期的に胸部エックス線検査をします。再発すれば治療を再開します。

(2016年12月)

MEMO

日本呼吸器学会では学会ホームページにて「市民のみなさま向け」に様々なコンテンツを公開しています。ぜひご覧ください！



呼吸器の病気

Respiratory disease

『疾患別』に症状や、診断・治療方法を解説しています。

呼吸器

Q&A



『症状から』対応方法などをQ&A形式でお答えします。

※ここに書かれている内容は、あくまで一般的なものであり、必ずしも貴方の病気にあてはまらない事もありますので、この内容を参考にし、呼吸器の専門医の診察を受けてください。

日本呼吸器学会
ホームページ

www.jrs.or.jp/